



鈴鹿西ロータリークラブ会報

所属： 国際ロータリー第 2630 地区 鈴鹿・亀山グループ；
創立： 1985 年 3 月 27 日； RI 認証： 1985 年 6 月 3 日(No. 1665)；
事務所： 〒513-0802 三重県鈴鹿市飯野寺家町 816 鈴鹿商工会議所 3F；
電話： 059-383-7077； FAX： 059-383-0501；
E-Mail： info@rotary-suzuka-west.org； https://www.rotary-suzuka-west.org/

UNITE
FOR
GOOD

よいことのために手を取りあおう

例会場： 鈴鹿商工会議所 4F 大ホール； 例会日： 火曜日； 例会食事： 12: 00； 例会： 12: 30-13: 30；

2025 年 11 月 11 日(火)第 1811 回例会

例会場： 鈴鹿商工会議所 4F 大ホール

開始： 12: 30 終了： 13: 30

例会進行： 服部高宣 副 S A A

点鐘： 会長 森 喜代造

ソング： 君が代 奉仕の理想

ソングリーダー： 川戸広樹会員

ゲスト： 鈴鹿・亀山グループガバナー補佐

村山竹則様 (亀山 R C)



会長挨拶 森 喜代造 会長

みなさん今日は。本日は鈴鹿・亀山グループ、ガバナー補佐の村山様にお越し頂いております。大変お忙しいところありがとうございます。また後ほど卓話の方もよろしくお願ひします。

さて、今、鈴鹿市の認知症患者は 5 千人おります。先般ロータリーの会議が岐阜であるということで、急いで行きました。鈴鹿駅の駐車場に着いたのが 8 時 16 分、8 時 17 分発の電車で

あり、電車はすでに来ておりました。急いで改札口から切符ももらわずおもいきり走り、1 階 2 階 3 階までの階段を駆け上がりました。電車はすでに到着しており、ホームについた時に電車のドアが半分閉まりかけているときに、飛び乗りました。そしたらつまずいてしまい電車の中でコケました。私、今まで電車の中で拍手をもらったのは初めてでございます。大変恥ずかしい思いをしました。それで柿安ホールに着き、何か人が少ないと思って予定表を見たら、岐阜県なっていました。その時はもう午後 2 時でありました。絶対間に合わないと思い諦めてまた桑名から鈴鹿に戻りました。後で聞いてみると本日の会合は岐阜県であり、私の予定表も岐阜県と書いてありました。しかしこの会議に会長は関係ない、ということであり、電車も乗り間違えました、今日はどうしたのかなと思い、いよいよ認知症の始まりかなと思い、大変な一日でありました。これからは日頃の脳活性化が大事であるかと思ひます。

さて、先般の 9 日は国際ロータリー第 2630 地区の地区大会に参加しましたので、報告させていただきます。

9 時の点鐘から始まり、日本と韓国の国歌を歌い物故会員を紹介し、全員で黙祷をはじめました。それから大会実行委員長から歓迎の挨拶

があり、桑名北ロータリークラブのホストクラブ会長の挨拶、そして来賓の紹介と特別出席者を紹介しました。ガバナー補佐の挨拶が終わり、地区現況報告と参加クラブの紹介もありました。その後、感謝状進呈、直前ガバナーへの感謝状贈呈と、いろいろな表彰があり、基調講演はその後からありました。

私ごとでございますが、12時から鈴鹿で講演会に招待されておりましたので、この後の基調講演も聴かず帰りました。誠に申し訳ございません。以上です。



幹事報告 柴田友美 幹事

1. 鈴鹿・亀山グループ各ロータリークラブ例会変更のお知らせ

亀山RC：11月3日(月) 法定休日

11月10日(月) 会場都合のためロータリー事務所

11月17日(月) 会場都合のためロータリー事務所

11月24日(月) 法定休日

鈴鹿シティRC：12月17日(水) クリスマス例会のため鈴鹿グランドボウル・クラブ 蝶々

12月24日(水) 特別休会

12月31日(水) 特別休会

2. 2025-26 年度地区大会参加のお礼状が届いております。また、2024-25 年度 RI 表彰クラブ優秀賞を受賞しました。表彰状は後日、事務局に届けられます。

3. 地区ガバナー事務所より 2028-29 年度ガバナー候補者の推薦の依頼が届いております。

締切日 2026年1月20日

提出先 国際ロータリー第2630地区

ガバナー事務所「地区指名委員会」

4. 2025年11月ロータリーレートは、1ドル154円です。

5. 次週11月18日(火) 例会終了後、第7回理事・役員会を事務局において開催いたします。



委員会報告

* 11月会員誕生日お祝い

藤野恵子 親睦・家族委員長

田中 通会員 田中洋二会員 岩崎 透会員



*ロータリーの友 11月号紹介

田中 通 クラブ広報委員

皆さん、こんにちは。

今月11月は「ロータリー財団月間」です。

『ロータリーの友』11月号では、ロータリー財団の理念とその意義を、あらためて深く考えさせられる内容となっています。

3ページのRI会長メッセージで、フランチェスコ・アレツツォ RI会長はまずこう述べています。

「寄付を行うだけでなく、寄付をする理由についても考えていただきたい。」

そして続けて、

「財団は、単にプロジェクトに資金を提供しているだけではなく、信頼と友情に根差した奉仕が持続可能な変化をもたらすという私たちの約束を果たすための原動力である。」

この言葉には、ロータリーの原点が凝縮されています。

私たちの寄付は、単なるお金の支援ではなく、“信頼と友情に基づく奉仕の約束”を実現する行為です。

ロータリー活動において、地区補助金やグローバル補助金によるさまざまな事例紹介を見ると、教育や医療、ポリオ根絶など、私たちの寄付が

世界の課題解決へと確実に繋がっていることが実感できます。

そしてRI会長は最後に、次のように締めくくっています。

「今月は、感謝の気持ち、喜び、希望を『寄付』という形で表しましょう。財団を通じて、私たちは『よいことのために手を取り合い』、その過程でプロジェクトだけでなく、平和、信頼、『超我の奉仕』というレガシーを残していくのです。」この“寄付”という言葉の中に、ロータリアンとしての心のあり方がすべて込められています。

今年11月3日から11月9日の期間が「世界インタラクティブ週間」でした。

今月号の5ページには、それにちなんだ特集記事「インタクター未来の羅針盤」が掲載されています。

大阪・関西万博のテーマウィーク「青少年の提言：平和構築と人権擁護」に集ったインタクター達が、自らの探求心と向き合い、未来への羅針盤を磨きました。

彼らが真摯に取り組み、議論を重ねて生み出した言葉には、若者たちの無限の可能性と、社会を変える確かな希望が詰まっています。

万博では、第2660地区の7つのインタラクティブクラブの代表者が、自らの言葉で「人権と平和」について発表しました。

個人的に印象深かったのは、11ページに掲載された高槻インタラクティブクラブの「南スーダンへの教育支援」です。

私の大学での教え子のひとりに、スーダンで国際協力活動に携わっていた者がいたのですが、彼から現地の若者がアルカイダやISISといった

武装組織に引き込まれていく様子をよく聞きました。

だからこそ、「教育から何とかしていかなければ」と強く思ったものです。

このインターアクトの教育支援の取り組みは、まさに平和に直結するものだと感じました。

財団の理念と若者たちの行動が、今月号では見事に呼応しています。

「寄付」と「教育支援」——この二つの奉仕のかたちが、信頼と平和という共通の目的に結びついているのです。

今月号を通じて、未来を担う世代への希望と、自分たちが築くべき平和の形をあらためて考えるきっかけにしたいと思います。

最後に、20ページには“The optimist”としてゲイツ財団のことが紹介されています。

ゲイツ財団も25周年、そしてビル・ゲイツも70歳になりました。

ゲイツ財団は20年後の事業終了に向けて、これまでの2倍の資金を使うとのこと。

ロータリーは今後も年間5000万ドルの資金調達を継続し、その1ドルごとにゲイツ財団が2ドルを上乗せする形で資金が拠出されます。

以上、『ロータリーの友』11月号の紹介でした。



* 第2回ロータリー財団研修（補助金管理） セミナーの報告

服部高宣 ロータリー財団委員長

本講義は、地域担当委員の藤田氏によるロータリーの地区補助金に関する説明である。地区補助金の対象となる事業の定義、申請が認められないNG事例、申請から報告までの詳細なスケジュールについて解説された。また、申請書作成時の注意点として、担当者の一貫性、綿密な計画の重要性、正確な資金管理、ロータリーレートの変動リスクなどが強調された。さらに、過去の申請で委員会が修正を依頼した具体的な事例（記念品、看板代、講師謝礼、ポリオ関連の記述など）を複数紹介し、申請者がルールに沿った適切な事業計画を立てられるよう、具体的な指針とサポート体制について説明している。

1. 地区補助金の基本ルール

- 補助金の対象事業
 - クラブの所在地域または海外での人道的プロジェクト、奉仕プロジェクト、および奨学金に利用できる。
 - プロジェクトはロータリー財団の趣旨に関連している必要があ

り、地域のニーズを掘り起こすことが前提となる。

ラブへの補助金振込は10月中を目標としている。

- 補助金対象外（NG）となるケース
 - 単なる物品の寄贈。
 - 他団体が開催する事業への補助的な支援のみ。
 - 事前の承認なく事業内容を追加・変更した場合。
 - 領収書がない、または支出金額が確認できない支出。
 - 予算を消化できなかった場合。
 - 受益者にロータリー関係者が含まれている場合。
 - 「周年事業」として週報や新聞記事に記載される場合。
 - 特定の個人、団体、地域社会に対する継続的または過度な支援。
 - 上記に該当する場合、委員会での確認後、補助金の返金となる可能性がある。

- 報告書の重要性と期限
 - 次年度の補助金は、現年度（2025-26年度）の事業報告書が国際ロータリーに承認されるまで地区へ振り込まれない。
 - 2025-26年度の報告書提出期限は、2026年4月30日。
 - 2026-27年度の事業は2027年3月末までに終了させ、報告書を2027年4月末までに提出する必要がある。
- 資料の保管義務
 - 国際ロータリー財団による査察に備え、事業終了後5年間は関連資料を必ず保管する必要がある。

3. 申請・報告における重要注意事項

2. 申請から報告までの流れとスケジュール

- 次年度（2026-27年度）事業のスケジュール
 - 申請期限：2026年1月末。期限厳守で、申請書をメールで地区事務所へ送付する。
 - 申請受理確認：申請後10日以内に地区事務所から受信確認メールが送付されるため、必ず確認する。
 - 採択と振込：審査を経て採択されると内定メールが送られ、各ク

- 担当者と計画の重要性
 - 事業は申請から報告まで1年半を要するため、年度をまたいでも同じ担当者が責任を持って対応することが推奨される。
 - 実現可能なプロジェクトを綿密に計画することが重要。「とりあえず申請」という姿勢ではなく、しっかりとした計画を立てる必要がある。事業のすり替えは認められない。
- 資金管理と予算
 - 申請書と報告書の資金管理項目は必ず一致させる必要があり、申

請段階から精度の高い見積もりが求められる。

- 予算不足による計画縮小や、予算が余ったことによる未申請事業の追加はできない。
- 申請件数が多く予算が不足する場合、申請額の満額が支払われない可能性があるため、クラブで備費を準備することが推奨される。
- プログラム内容の検討
 - 過度な飲食を伴うプログラム、過度な講師謝礼、高額な物品の寄贈は避け、効率の良いプログラムを検討する必要がある。
- ロータリーレートの変動
 - 補助金は申請時（12月）のロータリーレートで計算されるが、実際に振り込まれる際はその月のレートが適用される。そのため、日本円での申請額と受領額は変動する可能性がある。

4. 申請書修正の具体的事例と対応

- EREY（年次基金一人当たりの寄付額）の修正
 - 3年前の自クラブの寄付額を記載する必要がある。金額は冊子の58～61ページで確認するか、地区事務所にお問い合わせる。
- 記念品・景品に関する修正
 - 「子どもと読書支援プロジェクト」において、記念品として予定されていた図書カードは換金性

が高いため認められず、品目の変更を依頼した。

- 「賞金」と捉えられる記述があったため、記念品への変更と見積書の提出を依頼したケースもある。
- 看板代に関する修正
 - 地区のルールでは500ドルを超える看板は修正対象となる。会場案内などを一式で「看板代」と表記していたため、別表記を依頼した。
- 高額な講師謝礼に関する修正
 - 1,000ドルを超える講師や指導者を招聘する場合は、事前相談と、見積書・プロフィール・選定理由の添付が必要。
 - 「未来の子どもたちにきれいな海を継承し…」という事業で、演奏家の報酬が高額だったため、追加資料の提出を依頼した。
- ポリオ撲滅運動に関する記述の削除
 - 地区補助金はポリオプラス基金とは財源が異なるため、ポリオ撲滅運動には使用できない。
 - ラグビーフェスタの申請書に記載されていたポリオ撲滅運動に関する記述は、誤解を招く可能性があるため全て削除を依頼した。
- 書類提出の柔軟な対応
 - 講師の見積書提出が困難だったケースで、担当者とのメールのやり取りに明確な金額の記述があ

ったため、それを証拠として受理した。

- 委員会は事業がルールに沿うよう書類整備などを手伝えるため、困ったことがあれば事前の相談が推奨される。

岐阜加納ロータリークラブに所属する道家氏が、平和フェロシップ小委員会の活動を中心に、ロータリーの奨学金制度を解説したものである。グローバル補助金、地区補助金、平和フェロシップという3つの主要奨学金プログラムの概要と、それらの基盤であるロータリーの「7つの重点分野」について、具体的事例や数値を交えて詳述。特に、平和構築のリーダー育成を目的とする平和フェロシップの重要性を強調し、地区からの積極的な候補者推薦を呼びかけた。最後に、奨学金プログラムのOB/OGによる学友会が主催する、ポリオ根絶支援のチャリティーコンサートへの参加・協力を強く要請して締めくくった。

1. 平和フェロシップ小委員会の活動と奨学金プログラム概要

- 小委員会の主な役割
 - ロータリーの奨学金(フェロシップ)制度の運営を担当。
 - 主な業務は、奨学生の募集、審査、支援。
 - 奨学金プログラム修了者で構成される「学友会」への支援も実施。
- ロータリーの3つの主要な奨学金プログラム
 - ロータリー財団は以下の3プログラムを提供。

1. グローバル補助金奨学生
2. 地区補助金奨学生
3. 平和フェロシップ

- これらは地区で最も大きな資金を動かす活動の一つ。

2. ロータリー財団の7つの重点分野

- 平和構築とその予防
 - 最重視分野。世界の難民は日本の人口に近い約1億2000万人弱。紛争予防と平和を築く人材育成が急務。
- 疾病予防と治療
 - 1985年から続くポリオ根絶活動が代表例。結核、マラリア、HIVへの取り組みも含む。
 - 例：アフリカでの治療経験を持ち、将来は国境なき医師団としてコンゴへ行きたい志を持つ、三重県伊勢赤十字病院の医師を紹介。
 - 「寄付金」ではなく目的達成のための「支援金」と捉えるべきと提唱。
- 水と衛生
 - 井戸設置、浄水システム提供に加え、衛生教育を重視。
 - 例：岐阜川ロータリークラブがカンボジアで学校とトイレを建設し、子供の疾病が減少。コンゴでは子供の3分の1しか成人にならない厳しい現実。
- 母子の健康
 - 妊産婦・子供の生命を守る活動。妊娠中ケアや出産後支援を含む。

- ポリオ根絶の重要性を強調。アフガニスタン・パキスタンにポリオが残存する限り全世界で接種が必要。日本では4回接種で約2万6,7千円、岐阜県・三重県では年間約3億円を地方自治体が負担。
- 応募資格：第2630地区内の大学・大学院在学者または職場勤務者。特例として実家が第2630地区内にある場合も可。
- 他奨学金（JASSO、中島記念財団など）との併用が可能という大きな利点。

- 基本的教育と識字率の向上

- 15歳以上で読み書きできない人は世界に約7億人。ロータリー財団への寄付は教育支援に活用。

- 地域社会の経済発展

- 貧困層の経済的福祉に貢献。
- 例：バングラデシュのマイクロクレジット。識字・資金のない女性へ3000～4000円の少額融資を行い、5人組で竹細工や縫製等の事業を開始支援。ノーベル平和賞に関連する活動。

- 環境

- 2020年に追加。地球規模の環境課題に取り組む人材育成を支援。

- 重点分野の相互関連性

- 7分野は相互に関連。例：清潔な水の供給は健康を守り、教育機会の創出につながる。

3. 各奨学金プログラムの詳細

- グローバル補助金奨学生

- 旧称「国際親善奨学生」。7重点分野に関連する研究が対象。
- 奨学金額は3万～5万4000ドル。
- 推薦クラブは500ドル拠出が必要。

地区補助金奨学生

- 7重点分野以外も対象。第2630地区では伝統的に「音楽分野」の学生を支援。
- 推薦クラブは500ドル拠出が必要。
- グローバル補助金と異なり、応募資格に実家所在地は不問。

- 平和フェロースhip

- 平和構築のリーダー育成を目的。元国連難民高等弁務官・緒方貞子氏もロータリー奨学生で、その経験がルワンダ難民支援に活かされたことが設立背景。
- 世界で修士課程50名、専門家向けサーティフィケート80名を選抜。
- 日本拠点は国際基督教大学（ICU）。世界から10名受け入れ。
- ICUフェローは、地区会員の寄付金（半期150円/人）により広島平和記念公園や東日本被災地を訪問し、戦争・災害の悲惨さを学ぶ。

- 卒業生は国連機関、NGO、世界銀行などで活躍し、強力な国際ネットワークを形成。
- 申請期間：毎年2月1日～5月15日。

4. 学友会とチャリティーコンサート

- 学友会の目的と活動
 - 奨学金プログラム修了者（OB/OG=学友）で構成し、ロータリーとの繋がり継続を目的。
 - 学友がロータリークラブを設立した事例あり。
- チャリティーコンサートの開催
 - 学友会主催。ロータリーへの恩返しとポリオ根絶への協力が目的。
 - 日時：2026年2月13日（金）開催予定。
 - 出演者は一流音楽家の学友。フランスから自費帰国して参加する者もいる。
 - 学生もチケットを手売りで販売。ロータリアンに対し、積極的なチケット購入と支援を強く要請。

出席報告 **江藤隆仁 出席委員長**

正会員 25名中 15名出席 出席率 71.42%

ニコニコボックス報告

藤野恵子 親睦・家族委員長

敬称略・順不同

※多額

※**村山竹則（亀山RC）**：よろしくお願いします。

※**森喜代造**：本日のガバナー補佐 村山様、ようこそお越しいただきました。卓話、楽しみにしております。

柴田友美：村山AG本日はよろしくお願いいたします。先週末は地区大会にご参加ありがとうございました。

沖 俊成：AG村山様いつもありがとうございます。

野間芳実：ガバナー補佐 村山竹則様を歓迎して。

岩崎 透：村山竹則ガバナー補佐、お話何時も楽しみにしています。

本日のプログラム

ガバナー補佐の卓話

鈴鹿・亀山グループガバナー補佐

村山竹則様



地区大会（11月8日・9日）

会場：柿安シティホール

登録者数：10名



会報発行担当：川戸広樹